

# 青葉区東六地区民生委員児童委員協議会

(平成 26 年 3 月 28 日掲載)

## 1. はじめに

当地区は仙台駅に近く、小規模ですが商業地域といえる街です。

近年は、マンション・社宅・アパート等、集合住宅の増加が著しい地域です。

## 2. 震災後の状況

① 古くからある町並のため、家屋全壊 7 件、半壊 30 件など古い建物の被害がありましたが、津波被害はありませんでした。

② 仙台駅に近いことで、帰宅困難者 1,800 名が地域の小学校に避難し、その対応に追われました。



1,800 名を超える県外からの避難者

予想外の避難者数に混乱もありましたが、日頃からの地域の諸団体（民児協はもちろんのこと社協・日赤・連合町内会・学校・商店街など）の連携と信頼関係が功を奏し、多くの避難者へのおもてなしの心で支援を行なうことができました。

※コミュニティづくりの必要性和大切さを痛感しました。

③ 平成 23 年 9 月には、当地区民児協として大きな被害を受けた南三陸町を訪れ、「教育委員会生涯学習課」を通じて児童図書 500 冊を寄贈しました（NPO 団体による支援や民生委員の協力により集めたものです）。



④ 同年 11 月には、連合町内会と合同で図上シミュレーション訓練を実施しました。

※仮想条件を設定し、地域災害が発生した場合、どのように対応するか、講師として自衛隊防災担当者を招き、指導を仰ぎました。

## 3. 被災者への支援

私たち民生委員は、市社協が立ち上げた「地域支えあいセンター」事業として開催している、月 1 回の“ふれあいサロン”へ毎回参加し支援を行なっています。回を重ねるごとに参加者とも顔見知りとなり、同センターを通して地域で行なっている“いきいきサロン”や地域への行事への参加を呼びかけています。

最近では時間の経過とともに、住宅問題などの課題が深刻化し、生活の再建への住民間の格差を感じています。民生委員として、一人ひとりにそっと寄り添い、耳を傾け、言葉を選んで会話をしています。

本年（平成 26 年）2 月 22 日に「復興支援!!ニューイヤーズコンサート」を計画し、

2月是一段と寒さが厳しい折ですが、ひととき“ホッと”心温まる時間を共有していただけると、民生委員一同準備をし、開催しました。

また、年3回行なわれる社協主催の「被災者支援ネットワークミーティング」にも出席し、被災者支援の情報交換を行ない、それを支援活動の参考にしています。

#### 4. 終わりに

東日本大震災を経験して“地域力”の重要性を実感しています。

震災後、当地区の団体間の連携はますます強固なものとなり、防災に関しては避難所運営マニュアルも作成し、学校とも常に情報交換を行なっています。

日頃より心を通わせ、顔の見える取り組みが不測の事態に対応する大きな力となると感じています。